

CONTENTS 目次

- 2 特集「部活動の新しいカタチ」
- 8 応援大使・子育てひろば ほか
- 10 ヤイタゴハン・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 16 はつつつ通信
- 18 市からのお知らせ
- 28 ゆかりびと・編集後記

COVER 表紙の写真



表紙は、地域クラブ指導員の笹沼さんが見守る中、最後の県大会に向けて練習に励む片岡中卓球部の生徒たちです。「一人ひとりの個性と向き合い、良さを伸ばしたい」と話す笹沼さん。3年かけて築き上げた信頼関係が、練習の雰囲気から伝わってきました。

POPULATION 人口(7月1日現在)

29,802 人 (△ 8)	出生	7 人
男 14,876 人 (10)	死亡	33 人
女 14,926 人 (△ 18)	転入	75 人
13,354 世帯 (14)	転出	57 人
() 内は 6 月 1 日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		

特集 地域とつながる、未来をつくる 「部活動の新しいカタチ」



学校の部活動はこれまで、学校教育の一環として、生徒たちの心身の成長を支える貴重で有意義な役割を担ってきました。しかし近年、生徒数の減少が加速する中で、中学校の教職員数も減少傾向にあります。それに伴い、生徒が選択できる部活動の種類が限られたり、部員不足により大会に参加できないケースが生じたりと、部活動の“持続可能性”が大きな課題となっています。また、競技経験の少ない教職員が専門外の種目を指導せざるを得ない状況や、休日を含む指導の負担が重くのしかかる現実もあり、教職員の働き方の観点からも見直しが求められています。

こうした課題を受け、国は部活動の地域展開を進める方針を打ち出しました。矢板市でも令和3年度から、「たかはら那須スポーツクラブ」と連携し、休日の部活動で実証事業などを行い、地域の力を活かした部活動の新しいカタチを模索してきました。

そこには、学校と地域が手を取り合うことで生まれる、部活動の「新しい価値」がありました。



学校から地域へ。 部活動の 新たな担い手

令和3年度から実施してきた実証事業で、矢板中弓道部や片岡中卓球部では地域の方が地域クラブ指導員として、片岡中サッカー部では顧問の先生が地域クラブ指導員を担うなど、さまざまな形の地域展開を試みてきました。地域の実情に合わせて広がりつつある部活動の地域展開。これまでの「学校部活動」では、先生が中心となり生徒を指導し支えてきましたが、「地域クラブ活動」では、地域の皆さんが指導役を担い生徒を見守ってくれています。

部活動の在り方が大きく変わろうとしている今、地域クラブ指導員の皆さんは、現場でどのような想いで生徒たちと向き合っているのでしょうか。実際に、お話を伺いました。

弓道を通じて育まれる、互いを高め合う子どもたちの姿

教員として高校の弓道部顧問となったことがきっかけで弓道と出会い、最初は生徒に教えてもらいながら指導歴をスタートしました。退職後も地域の弓道教室の指導員などを経て、現在は地域クラブ指導員として活動しています。いろいろと肩書は変化してきましたが、弓道を学ぶ地域の生徒たちの指導に携わって40年近くになります。中学校3年間の成長を見守っていますが、自分たちで学び合い高め合っている生徒たちの姿に感心することばかりで、私もたくさんのことを学んでいます。また、高校に進学した後も全国大会で結果を残す子がいたり、卒業生の多くが、進学後も弓道を続けていたり、生涯スポーツとして弓道に関わりながら活躍する子どもたちの話を聞くと「やっていてよかった」と心から感じます。

私自身、生徒たちと過ごす時間で元気をもらっています。時には厳しく指導することもあります。できるようになった時の笑顔や真剣に取り組むまなざしなど、生徒たちの成長が何よりの原動力となっています。

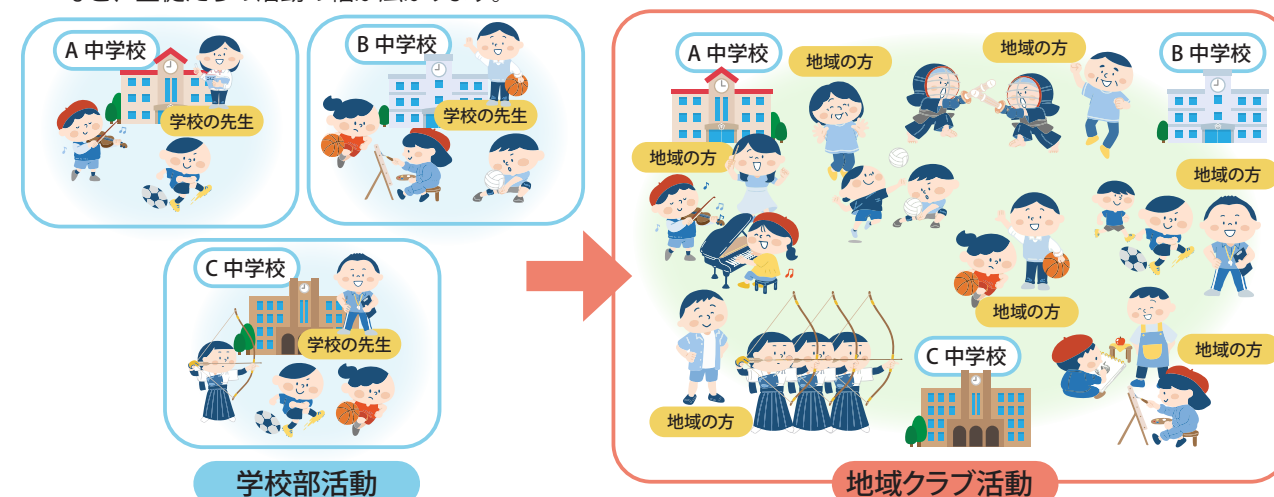


矢板中学校 弓道部
宮崎 博さん



これまでの「学校部活動」と、これからの「地域クラブ活動」のイメージ

これまでA、B、Cそれぞれに活動していた「学校部活動」は、学校という枠を超え、地域で活動する「地域クラブ活動」へ移行していきます。地域の方の協力により、指導者が充実し、ほかの学校と合同になることで、部活動の選択肢が増えるなど、生徒たちの活動の幅が広がります。



続く挑戦、広がるつながり。卓球で広がる地域の輪

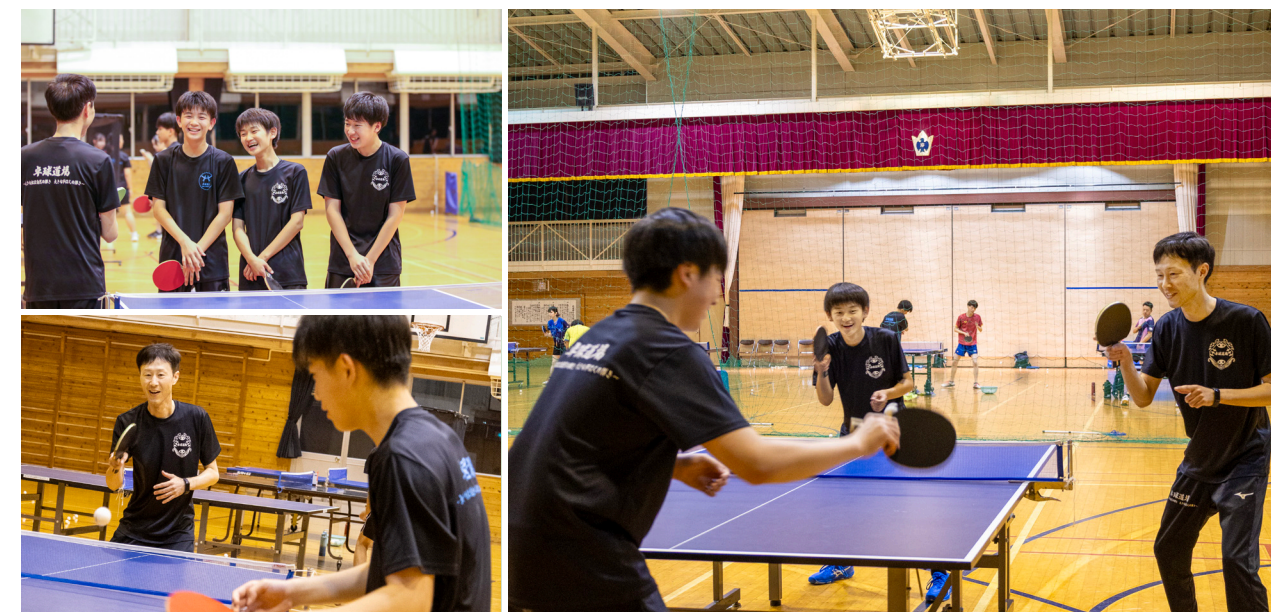
2人の息子が卓球部に入部したことをきっかけに部活動でボランティアを始め、今は地域クラブ指導員として指導に携わっています。指導に関わる中で挫折の時期もありました。積み重なる仕事の疲労や運動不足などもあり、椎間板ヘルニアを発症し半年以上仕事も指導もできず痛みと戦うつらい期間を過ごしました。その時、生徒たちや保護者の方々からたくさんの励ましの言葉をもらい、勇気をもらいました。こうして元気に指導を続けられるのもこの地域活動のおかげです。

今では、当時教えていた卒業生が指導の手伝いに来てくれたり、息子たちも地域クラブ指導員として活動を始めたりするなど、これまで関わってきた人と人のつながりが広がり、新たな展開につながっています。

現在片岡中卓球部は、団体戦で地区大会9連覇中です。結果は後からついてくるものではありませんが、これからも生徒たちの「勝ちたい」「上手になりたい」という気持ちに真摯に向き合い、感謝の気持ちを込めて、自分にできることを精一杯伝えていきたいです。



片岡中学校 卓球部
笹沼 秀昭さん





矢板市地域クラブ活動 今後のスケジュールイメージと目標



Q 将来的に学校部活動はなくなってしまうの？

A 休日に実施している部活動から徐々に地域に移行します。地域展開ができない場合には、これまでと同様の部活動になりますが、部活動指導員や合同部活動の導入などの地域連携に取り組み、地域展開の準備を進めていきます。

Q 文化部についても地域展開するの？

A 文化部についても、地域の実情に応じて、休日に実施している部活動から徐々に地域クラブ活動へと展開します。

Q 地域クラブ活動の指導者として参加するにはどうしたらいいの？

A ぜひ多くの方に協力していただきたいと思っています。競技経験・指導歴・資格などを確認させていただきますので、教育総務課（☎43-6217）までご連絡ください。

Q 部活動が地域展開した場合、保護者の負担はどうなるの？

A 学校の活動ではなくなるため、指導者への謝金・会場使用料・保険料などの費用は、保護者の負担となります。市では、補助や支援の在り方などを検討しています。

日々、上達を感じて楽しい。先輩たちのように結果を残せる選手になりたい。



弓道に出会えて、精神面を鍛えられました。学ぶ機会があることに感謝です。

強くなれたのは、地域クラブのおかげです。
県大会に出場できてうれしかった！

生徒たちの声

サッカー部の仲間と、練習する機会が増えて、うれしい。もっともっとサッカーがうまくなりたい！

卓球以外にもいろいろな相談にのってくれて、ありがとうございました。



子どもたちの人生により豊かな彩を

今回お話を伺った地域クラブ指導員さんは、それぞれの中学校の卒業生でした。「自分たちが中学校時代に経験した楽しかった部活動の思い出を、今の子どもたちにも伝えたい」そんな地域への愛が、部活動の地域展開を支えていました。

地域展開には、地域クラブ指導員の確保やクラブ運営費、活動場所など、まだまだたくさんの課題があるのが現状です。一方、地域がつながることで生まれる新たな発見や、学校という枠を超えた仲間との出会いなど、これまでにない学びの可能性も生まれています。

部活動を楽しむ子どもたちの元気な声が、学校を飛び出し地域に広がろうとしている今、地域ぐるみで子どもたちの成長を支える、新しい“部活動のカたち”が動き出しました。引き続き矢板市では、地域と共に、未来の部活動のカたちを育みながら、子どもたちが輝ける環境づくりに取り組んでいきます。

問い合わせ／教育総務課 ☎（43）6217

